

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第1回高松市地域部活動検討委員会
開 催 日 時	令和4年9月29日（木）10時00分～11時45分
開 催 場 所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) 委員長の選出について (2) 高松市地域部活動検討委員会について (3) 部活動改革の動向と国の検討会議による提言の概要について (4) 高松市の運動部活動の現状と地域運動部活動推進事業について (5) 今後のスケジュールについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	野崎委員、溝渕委員、市原委員、大谷委員、白井委員、谷委員、植松委員、大西委員、河野委員、西山委員、臼井委員
傍聴者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	保健体育課 087-839-2657

会議の経過及び結果

会議公開の確認、教育局長挨拶及び委員の紹介の後、以下の議題について協議した。

(1) 委員長の選出について

高松市地域部活動検討委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員の互選及び委員長の指名により、委員長を決定した。

委員長 野崎委員

(2) 高松市地域部活動検討委員会について

事務局から説明（資料1）

(3) 部活動改革の動向と国の検討会議による提言の概要について

事務局から説明（資料2、別添資料）

(2) 及び (3) についての質問

（事務局）

まず、学校部活動には「運動部活動」と「文化部活動」があるが、今日の会については「運動部活動の地域移行」の内容に特化したものになることをお知らせする。

（委員）

国の方針として部活動をどう捉えているのか。現在各競技にクラブチームがあるが、どのような形にしようとしているのか。

（事務局）

国は、以前は「地域部活動」と表現していた。現在は「地域スポーツクラブ活動」という表現に代わっており、基本的には学校から地域へ移行しようとしていると捉えている。

(委員長)

現在、学校で部活動に参加している生徒の全てがクラブチームに移れるのだろうか。これまで幅広い子どもたちが、学校の部活動という枠組みの中で教育的な影響を受け、自己を伸ばす可能性を与えられてきた。そういった取組が、突然地域に移行するということは、なかなかうまくいかないのではないかと思う。

「めざす姿（資料2）」にある「少子化の中でも、将来にわたり子どもたちが継続して活動を親しむことのできる機会を確保していく」道筋を探ることが、本検討委員会での検討内容になるのではないかと思う。

(委員)

活動場所や指導者の確保など、いろいろと大きな課題が出てくると思うが、子どもたちを中心に据え、子どもたちの活動が阻害されないような取組ができるように団体として協力させていただきたい。

(委員長)

運動部活動・文化部活動ともに、活動場所や指導者の問題が出てくる。これまで高松地域の取組に関わってきたが、高松は子どもをしっかりと育てようという熱心な地域性があると感じているので、様々な可能性があるのではないかと考えている。

(委員)

「めざす姿」に示されてはいるが、部活動は教育の面もある。学校での授業だけでなく部活動で人格教育等が行われてきた歴史があったと思う。部活動という集団で一つのことをやり遂げるといった部活動の良さから離れ、どういった方向に進んでいくのか「すり合わせ」が必要ではないかと思う。

(委員長)

スポーツ少年団（以下スポ少）の指導者の方々が工夫してこられた内容もあるし、教員の方々が教育の立場で子どもたちと関わることの重要性は誰もが認めていることである。学校の立場から運動部活動の適正化をどうとらえているか。

(委員)

部活動で子どもたちが成長していくことは大きいものがある。現在、少子化で部活動が成り立たない問題や、教員の働き方改革の問題等がある。個人的な考えだが、技能の向上を求めている子どもは、地域のクラブで活動していくと思うが、その競技を楽しみたいと思っている子どもたちの楽しみを奪ってしまうことにならないようにしなければならないと思っている。今後は、子どもたちのことを一番に考えて話し合っていかなければならないと感じている。

(委員長)

スポ少での指導や学校での指導を通して指導者も成長していくと思う。保護者の方もスポ少を手伝う中で、子どもと関わり、子どもが成長していくことを通して、自分自身も成長していくことを経験した方も多いのではないかと思う。仕組みや制度が大きく変わっていくのは難しいと思うが、学校教育のいい点をうまく引き継ぎながら、少しでも新しい形に繋がっていく糸口が見えたらいいのかなと思っている。

(4) 高松市の運動部活動の現状と地域運動部活動推進事業について

事務局から説明（資料3）

(4) についての質問

(委員長)

「資料3 P6」の表から、運動部活動の入部数の減少が分かり、「資料3 P7」からは高松市内の先生方の専門性が高いことがわかる。そうした中で「資料3 P8、9」からは、部員数の減少から合同チームで大会に参加しているチームが多くなっている。以前は、合同チームの規定は中体連で決まっていた、新入生が入って最低人数に達した場合は、新人大会で合同チームとして練習していたチームが春からは単独校での参加になっていたが、この規定は以前と同じなのか。

また、今年度、モデル事業として行う「牟礼中学校と庵治中学校のバレーボールでの合同チーム」は新人大会には参加できるが、来年度部員が増えたときは総体に参加できるのか。

(事務局)

「資料3 P8、9」から、団体種目での合同チームが増えていることがわかる。この他にも、参加最低人数で参加している学校も複数校あるのが現状である。

令和5年度からは全国中学校体育大会（以下、全中大会）にクラブチームが参加できるようになる。日本中学校体育連盟（以下、日本中体連）の合同規定は以前と変わっていないため、モデル事業の両校の部員数が増え、日本中体連の合同規定条件を満たさなかった場合には全中大会の予選となる地区総体には参加できない。しかし、クラブチームとして参加できるかどうかは、香川県中学校体育連盟に問合せ中である。

(委員長)

各地域で地域の特徴はあるが、今回のモデル事業は様々な課題がある中で、地域の特性を生かして新しい形を作っていく糸口になるとともに、ある程度継続的に活動できる基盤となるとすれば、新しい可能性が生まれるのではないかと思った。

(委員)

資料から、中学生の運動部活動への加入率は高いと感じた。小学生のスポ少への加入率は、全児童の2割弱程度であることから、中学校に入部してから運動を始める子どもが多くいるように思う。こういった状況から危惧することは、部活動が地域移行したときに加入率が下がり、スポーツをしない子どもが増え、特定子どもたちだけの活動になるのではないかということである。こういったことも共通理解し、皆で知恵を出し合っていく必要があると思う。

(委員長)

小学校ではスポ少に入っていなかった子どもも、中学校で部活動に入ってスポーツを始めて成長していった。「地域移行した場合にでも、こういった子どもたちにも目を向けていく必要があるのではないか。」という意見であったと思う。

(委員)

資料から、スポ少で活動している人数と中学校の部活動で活動している人数があまり変わらない競技と、大幅に減少している競技があり、いろいろと課題があると感じた。競技を「追求していく」のか、「楽しむ」のかに分かれると思うが、どこをめざすかが課題になると思う。

(委員長)

学校部活動から地域スポーツクラブ活動に移行した場合、学校からの支援（用具代、遠征費等）はどうなっていくのか。

(事務局)

部活動といった学校管理下の活動では、全てではないが何らかの補助があり、保護者の方の負担も少しは軽減してきた。しかし、地域移行した場合は、基本的に「学校管理下外の活動」ということになるため、現時点では「受益者負担」となる見通しである。国が考える「運営主体」については、「資料3・4 P12」に記載したものが考えられ、現在でも民間事業者に委託している自治体もある。高松市としても、いろいろな課題を検証しながら、「資料3 P10」に記載されている「外すことのできない3つの理念」にある「持続可能なものであること」にはどのようなものがあるかを検討していかなければならないと考えている。

(委員長)

「運営主体」や「財源」等、非常に難しい課題である。学校部活動の合同チームであれば、学校や行政からの支援は得やすいが、運営主体が地域に移行したときには大きな課題になってくる。今後、全国の制度設計や動向を見ながら検討していこうという説明であったと思う。

(委員)

現在、全国、地域によっていろいろなタイプで実施している。例えば、学校数が少ない市町では、行政からクラブに依頼している場合もある。高松市としても、全国の取組を注視しながら検討していかなければならないと思うが、「競技を楽しみたい」と考えている子どもたちのスポーツに取り組む機会を確保できる制度設計が重要になってくるのではないかな。

(委員長)

今回のモデル事業における指導者は、教員が兼職兼業の申請をして指導にあたる形をとっているが、今後、外部の指導者が指導していくことも考えたときに、現状はどのような状況なのか。

(委員)

高松市スポーツ協会としては、「高松市スポーツ推進計画」に基づきTASS（高松市アドバイザースポーツシステム）において専門種目の指導者養成を行っており、現在二百数十名の方がTASSに登録している。しかし、市民スポーツの健康づくりのための指導者は多いが、中学校で指導できる「野球」や「サッカー」等の指導者は非常に不足している現状であるため、各競技団体に研修会への参加を呼びかけるなどの努力をしている。高松市スポーツ協会が現在の体制になって5年目となるが、TASSのほか、令和2年11月にTASCR委員会を設置し、中学校の部活動を含んだ学生スポーツの改革のための話し合いを関係団体とともにやっている。

現状の部員数やクラブの参加などを考えると、全国大会への進出ができる大会とそうでない大会を各チームが選んで参加するなど、中体連主催の大会と競技団体主催の大会の改革が必要になってくるのではないかな。また、指導者は技術だけを教えるのではないと思っている。子どもの人間性の育成も大切になってくるということをお忘れではない。

部活動の地域移行には、「場所・財源・人」が関わってくると思うので、「新しい高松方式」を考えていかなければならないと思っている。

※TASCR委員会・・・Takamatsu Student sports Creative Reform 委員会

高松市の学生スポーツ活動を創造力を持って改革する委員会

(委員長)

今回のモデル事業で新しい取組の検証を考えていると思うが、指導者の指導日数の削減等が見られれば、移行期の姿にもつながってくるのではないだろうか。

様々な課題があると思うが、それぞれの委員の考えをお聞かせください。

(委員)

競技を楽しみたい子どもたちの受け皿を考えていきたい。また、平日は学校で部活動を行うが、休日は何もしないという子どもが出てくることも想定していく必要があると思っている。

(委員)

小学生は中学校での部活動を楽しみにしている。部活動が地域に移行していく状況を注視していきたい。

(委員)

生徒数の減少でチームが組めないことや教員の専門性のことを考えると、地域移行も如何ともし難いのかなと感じることもある。

(委員)

専門外の部活動の顧問を頼まなければならないケースもある。地域移行や来年度の総体についての情報が少なく不安に思っている教員が多い。

(委員)

文化部活動の地域移行を考えるうえで、とても参考になる意見が聞けてよかった。

(委員)

高松型のものをみんなで作っていくことが非常に大切だと思った。保護者もどうなるか不安に思っている。本日参加して、それぞれの方がそれぞれの立場で、課題の克服のためにいろいろと考えていることがわかりよかった。

(委員)

水泳競技やサッカー競技は、大会の持ち方や協会との連携等でうまくいっていると感じている。その取組を高松市で参考にしていけばいいのではないかと思う。

(委員)

スポーツは体づくりや健康づくりだけでなく、人間作りの大きな要素があると思っている。競技を追求することと競技を楽しむことは両輪だと思う。大変難しいと思うが、みんなで考えていきたい。

(委員)

いろんな課題があり大変だが、やりがいがあると感じている。自分ができることはしていきたいと思っている。

(委員)

今日は運動部活動中心ということであったが、文化部活動も地域移行をこれから考えていくうえで、課題は大きいと感じた。吹奏楽部を考えていく時にも「指導者、楽器、場所」という問題が考えられる。どういった形があるかこれから考えていきたい。

(委員長)

いろいろな課題がある中でも変わっていかねばならないと、皆さんが前向きに考えていただいていると感じた。

(5) 今後のスケジュールについて

事務局から説明（資料4）

(委員長)

委員の皆様は新しいものを創っていくという共通認識をもっている。今後はこのスケジュールの中でアイデアや意見をいただきたい。他に意見がなければ事務局にお返す。

その他

次回の開催は令和5年2月を予定していることの開催を確認した。

(閉会)